

com. to JP 6-54826

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 実用新案登録公報 (Y 2) (11) 実用新案登録番号

第2575336号

(45) 発行日 平成10年(1998) 6月25日

(24) 登録日 平成10年(1998) 4月10日

(51) Int.Cl.⁸
E 0 4 F 13/08
E 0 4 B 1/64
E 0 4 F 13/14

識別記号
1 0 1
1 0 2

F I
E 0 4 F 13/08
E 0 4 B 1/64
E 0 4 F 13/14

1 0 1 D
C
1 0 2 E

請求項の数 1 (全 5 頁)

(21) 出願番号 実願平4-93282
(22) 出願日 平成4年(1992)12月25日
(65) 公開番号 実開平6-54826
(43) 公開日 平成6年(1994)7月26日
審査請求日 平成7年(1995)12月18日

(73) 実用新案権者 000000479
株式会社イナックス
愛知県常滑市鯉江本町5丁目1番地
(72) 考案者 西 拓二郎
愛知県常滑市鯉江本町5丁目1番地 株
式会社 イナックス内
(72) 考案者 熊谷 英次
愛知県常滑市鯉江本町5丁目1番地 株
式会社 イナックス内
(74) 代理人 弁理士 吉田 和夫

審査官 藤野 いづみ

(56) 参考文献 特開 平1-182449 (J P, A)
実公 平2-37935 (J P, Y 2)

(54) 【考案の名称】 外装材取付構造

1

(57) 【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 下地に固定される固定片と、該固定片の下部位より建物から離れる前方向に段違状に突出した水切片と、該水切片の上側部位において該固定片より前方向に突出する状態で設けられた、水平方向に延びる位置決片とを有する水切金具を前記下地に固定するとともに、該下地への固定片と、これより前方向に延び出す、前方斜め上向きに傾斜した形状の傾斜片部を有する係合支持片とを備えた所定幅の固定具を、前記位置決片の上面に下向きに当接させる状態に固定し、該固定具の傾斜片部に対応した傾斜形状の傾斜面を備えた下向きの係合凹部を下端部に有する外装材の該係合凹部に対して、該固定具の傾斜片部が該係合凹部の傾斜面を上向きに受ける状態に該係合支持片を係合させ、以って該外装材の支持を行うようにしたことを特徴とする外装材の取付構造。

2

造。

【考案の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 この考案は外装材の取付構造及びこれに用いる水切金具に関する。

【0002】

【従来の技術】 従来より、セメント系板体等から成る外装材を建物の外面に張付・施工するに当って、かかる外装材を下側から上側に一部重ね合わせるようにして順次張付・固定していく工法が用いられている。

【0003】 而して一番下側の外装材の固定は、従来図5に示すような構造で行っている（実開平4-24928）。即ち建物より離れる方向（前方）に段違状に突出する水切片100を備えた水切金具102を固定片104において下地に固定し、しかる後所定幅を有する複数

の固定金具106を釘等により下地に止め付けて、この固定金具106に係合支持片108に外装材110の係合凹部112に係合させ、もって最下段の外装材110の下端部の支持及び固定を行なうようにしている。

【0004】この場合、複数の固定金具106の各係合支持片108が正しく水平となり且つ同一の高さに位置が揃うように取り付けることが必要であり、このため従来水切金具102に水平墨を付ける等して固定金具106の取付位置を設定した上で、各固定金具106の取付作業を行なっているのが実情である。

【0005】しかしながらこのような水平墨による固定金具106の取付位置の設定作業は面倒であり、しかもこのような設定を行なったとしても実際に固定金具106を釘等にて打ち付ける際に固定金具106が傾いたり、位置ずれしたりし、而してこのような状態で外装材110を固定金具106に係合させてその支持と固定を行なった場合、最下段の各外装材110の下端縁のラインが正しく一列に横並びせず、美観が損なわれるといった問題が生じる。

【0006】これを防止するために固定金具106の取付位置、向き等を修正するといったことが行われるが、この場合、施工作業が著しく煩雑且つ面倒となって施工に多大な労力と時間とを要する。

【0007】もっとも外装材110の下端縁を水切金具102の水切片100上に当接させるようにしてその固定を行えば、外装材110の下端縁のラインを奇麗に揃えることも可能である。しかしながらこのようにすると外装材110の下端縁と水切片100の上面との接触部分に雨水が表面張力等にて溜り易くなる。従って通常はこうしたことは行わない。

【0008】上記問題を解決するための外装材の取付構造として、図6(実開平4-24928)及び図7(実公平4-28961)に示すようなものが提案されている。このうち図6の取付構造は、水切金具102を下地に固定した上、図に示しているように固定片114、係合支持片116、係合支持片116より垂下する垂下片118を備えた固定金具120を、その垂下片118の下端縁が水切金具102の水切片100の上面に当接する状態に下地上に止め付け、そしてその固定金具120の係合支持片116に外装材110下端部の係合凹部112に係合させて、その支持及び固定をなすようにしたものである。

【0009】また図7に示すものもこれとほぼ同様であって、固定金具122の下端縁を水切金具102の水切片100の上面に当接させる状態に固定し、そしてその係合支持片に外装材110の下端部の係合凹部112に係合させるようにしたものである。

【0010】

【考案が解決しようとする課題】これらの取付構造は何れも固定金具120、122の下端縁を水切金具102

の水切片100の上面に当接させることによって、固定金具120、122の位置決めをなすようにしたもので、確かにこの取付構造によれば固定金具120、122の取付けに際して水切金具102に水平墨を付す等して固定金具120、122の取付位置の設定を行わなくても、かかる固定金具120、122を同一高さ位置に且つ正しく水平姿勢に取り付けることができる。

【0011】しかしながらこれらの取付構造の場合、外装材110の下端縁から固定金具120、122の一部が下向きに延び出した状態となり、外装材110の下端縁と水切片100との間の隙間からこれら固定金具120、122が外部に露出し、外観を損なうといった問題を生ずる。

【0012】

【課題を解決するための手段】本願考案はこのような課題を解決するためになされたものである。而して本願の考案の外装材取付構造は、下地に固定される固定片と、該固定片の下部位より建物から離れる前方向に段違状に突出した水切片と、該水切片の上側部位において該固定片より前方向に突出する状態で設けられた、水平方向に延びる位置決片とを有する水切金具を前記下地に固定するとともに、該下地への固定片と、これより前方向に延び出す、前方斜め上向きに傾斜した形状の傾斜片部を有する係合支持片とを備えた所定幅の固定具を、前記位置決片の上面に下向きに当接させる状態に固定し、該固定具の傾斜片部に対応した傾斜形状の傾斜面を備えた下向きの係合凹部を下端部に有する外装材の該係合凹部に対して、該固定具の傾斜片部が該係合凹部の傾斜面を上向きに受ける状態に該係合支持片に係合させ、以って該外装材の支持を行うようになしたことを特徴とする。

【0013】

【作用及び考案の効果】以上のように本考案の取付構造は、水切金具の位置決片の上面に固定具を下向きに当接させた状態でこれを下地に止め付けるようにしたもので、この取付構造によれば、水切金具に水平墨を付けるといった面倒な作業を行わなくても固定具の取付位置を定めることができ、且つ固定具を釘等にて止め付けるに際して上記位置決片の作用により、固定具が上下にずれたり、傾いたりするのを防止できる。これにより固定具の取付作業性が著しく向上し、また固定具をその係合支持片が同一高さに位置し且つ同一方向に揃うように取り付けることができ、ひいては外装材の下端縁のラインを綺麗に水平方向に連続させることができる。

【0014】本考案の取付構造は、上記図6、図7に示す従来公知の取付構造に比べて、固定具ないし位置決片が外部に露出するのを防止できる利点を有する。

【0015】これらの図に示す取付構造の場合、外装材の下端縁と水切片との間に所定の隙間をあげ且つ固定具を水切片に当接させる必要があることから、必然的に固定具の一部がその隙間に露出した状態となるが、本考案

の取付構造の場合、位置決片が水切片とは別途に且つこれよりも所定距離上側部位に設けられていることから、外装材の下端縁と水切片の間に隙間を確保しつつ、かかる外装材の下端部により位置決片、固定具を隠蔽する状態に外装材を取り付けることが可能となるからである。これにより外装材の張付施工の仕上り状態を良好とすることができる。

【0016】本考案の取付構造は、また、以下のような利点も有している。即ち本考案の取付構造では、固定具の係合支持片が前方斜め上向きに傾斜する傾斜片部を備えているとともに、外装材の下端部の係合凹部が対応する傾斜形状の傾斜面を有しており、そしてその固定具の傾斜片部によって係合凹部の傾斜面を上向きに受けるように外装材下端部の係合凹部に対して、固定具の係合支持片を係合させるようにしていることから、その係合時に外装材の下端部に対して後方向きの（建物側への）引込力を作用させることができる。

【0017】これによって固定具による外装材の下端部の支持と同下端部の固定具からの外れ防止とを行うことができるとともに、その引込力に基づいて外装材の下端部の前後方向位置を良好に規定することが可能となる。

【0018】

【実施例】次に本考案の実施例を図面に基づいて詳しく説明する。図1及び図2において10は建物の基礎、12は土台、14は後述する水切金具26、固定金具42、54を止め付けるべき下地材である。

【0019】16は建物の外面を覆うようにこれに張付・固定される繊維混入スラグセメント板、石綿スレート板、ケイ酸カルシウム板等の外装材で、図に示しているように下端部に下向きの係合凹部18を有している。この係合凹部18は、傾斜面20と垂直面22とで構成されている。

【0020】一方外装材16の上端部には係合凸部24が形成されている。そしてこの係合凸部24が、上段の外装材16の下端部の係合凹部18と相じゃくり嵌合されるようになっている。即ち外装材16は、上下端部が相じゃくり嵌合されて下側から上側へと順次継ぎ合わされて行く。

【0021】26は最下段の外装材16の下端部の固定に用いられる水切金具であって、アルミニウム、ステンレス、スチール等の押出材が用いられている。この水切金具26は、釘等にて下地14に止め付けられる固定片28と、固定片28の下端より前方に段差状に突出する水切片30とを有している。

【0022】水切片30の裏面側には一対の鍵状部32、34が設けられており、これら鍵状部32、34の内側に溝36が形成されている。そして図3に示しているようにこの溝36に金属製若しくは樹脂製のジョイナー38の両端縁部が嵌合されている。ジョイナー38は隣接する水切金具26を連結するためのものである。尚

水切片30の下端は一旦内側に引き込んだ後、上方に折り返されている。

【0023】水切金具26の固定片28には、水切片30よりも所定距離上側部位において板状の位置決片40が前方に突出状態に一体に形成されている。この位置決片40は水平方向に連続して形成されており、そしてこの位置決片40の上面に下向きに当接する状態で、固定金具（固定具）42（スタート金具）が取り付けられている。

【0024】この固定金具42は、固定片44と係合支持片46とを備えている。固定片44は釘等にて水切金具26を介して下地14に止め付けられる部分であって、下側部分が前方に隆起させられており、この隆起部48の下端近傍部位より上記係合支持片46が前方に突出形成されている。

【0025】係合支持片46は、外装材16の下端部の係合凹部18に係合してこれを支持する部分であって、図に示しているように前方斜め上方に延び出す傾斜片部50と、その先端より垂直に立ち下がる垂直片部52とから成っている。ここで傾斜片部50は、外装材16の上記傾斜面20に対応する傾斜角度とされている。

【0026】この係合支持片46上に外装材16の下端部を載せたとき、係合支持片46における傾斜片部50と、外装材16下端部の傾斜面20とが密着した状態となり、外装材16下端部の支持と外れ防止とがなされるとともに、傾斜面の作用で外装材16下端部に対して隆起部48側への引込力が働き、この結果隆起部48前面と外装材16裏面、及び垂下片部52と係合凹部18における垂直面22とが当接した状態となり、外装材16下端部が前後方向に位置決めされる。

【0027】尚この固定金具42は、固定片44の下端縁、具体的には隆起部48の下端縁が、垂下片52の下端と同等ないしこれよりも上側に位置させられている。

【0028】54は最下段の外装材16の上端部及び2段目の外装材16の下端部を固定するための固定金具であって、固定片44と係合支持片46とを有している。

【0029】固定片44の下側部分は上記固定金具42と同様に隆起部48とされており、この隆起部48の中間部位（上下中間部位）から係合支持片46が延び出している。

【0030】係合支持片46は、固定金具42におけるそれと同様の形状をなしており、傾斜片部50と垂下片部52とから成っている。そしてこれら傾斜片部50と垂下片部52とにより2段目の外装材16の下端部を支持する一方、最下段の外装材16の上端部の係合凸部24を、かかる係合支持片46により形成される下向きの溝47の内部に嵌入させてその固定を行なっている。

【0031】本例の取付構造の場合、下側の複数の固定金具42を、水切金具26を介して下地14に止め付けるに当って、固定片44の下端縁を水切金具26の板状

の位置決片 40 上に当接させるようにして止め付けることで、かかる固定金具 42 を同一高さ位置に且つ正しく水平向きに止め付けることができる。

【0032】即ち従来のように水切金具 26 に水平墨を付けてその取付位置の設定を行なわなくても、各固定金具 42 を予め定めた高さ位置、向きに取り付けることができる。

【0033】しかも釘等にて固定金具 42 を下地 14 に止め付ける際、位置決片 40 がずれ防止、回り止め作用をなすため、固定金具 42 がずれて固定されたり、傾いた姿勢に取り付けられたりするのを防止できる。

【0034】従って固定金具 42 の係合支持片 46 に外装材 16 の下端部の係合凹部 18 を係合させて外装材 16 下端部を固定したとき、外装材 16 の下端縁のラインを綺麗に水平方向に連続させることができ、仕上り状態を良好とすることができる。

【0035】本取付構造の場合、更に水切金具 26 の位置決片 40 及び固定金具 42 を外装材 16 の裏側に隠れた状態となし得る利点を有する。これは、固定金具 42 の取付位置を定める位置決片 40 を、水切片 30 とは別途に且つその上側部位に設けたことにより得られる利点である。

【0036】即ち係合凹部 18 を深く形成しておくことで、つまり垂直面 22 の長さを長くしておくことで、外装材 16 の下端部により固定金具 42 の係合支持片 46 及びこれを支持する位置決片 40 を隠蔽状態とすることができる。

【0037】尚この位置決片 40 は、図 4 (A)、(B) に示す水切金具 56、58 におけるように断面半円状の位置決片 60、断面三角形形状の位置決片 62 その

他形状の位置決片となすことも可能である。

【0038】以上本考案の実施例を詳述したがこれはあくまで一例示であり、本考案はその主旨を逸脱しない範囲において、当業者の知識に基づき様々な変更を加えた形態で構成可能である。

【図面の簡単な説明】

【図 1】本考案の一実施例である外装材取付構造の断面図である。

【図 2】同取付構造の要部斜視図である。

【図 3】図 1、図 2 における水切金具連結のためのジョイナーと周辺部の図である。

【図 4】本考案の他の実施例に用いられる水切金具の断面図である。

【図 5】従来の外装材取付構造の一例を示す要部斜視図である。

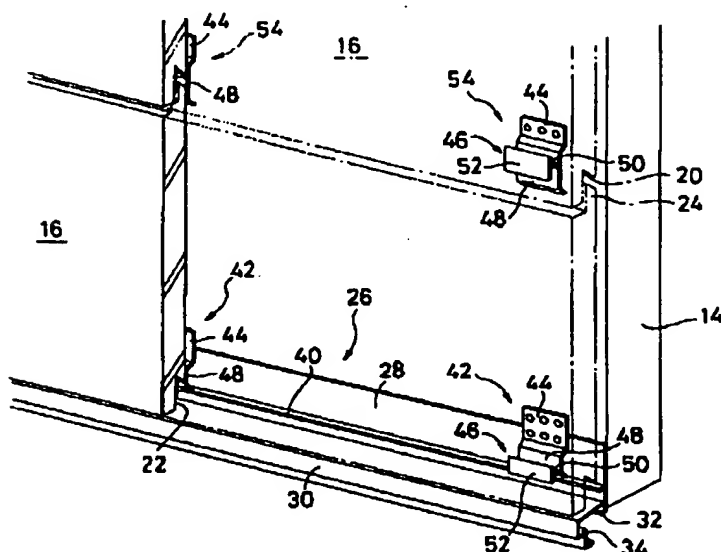
【図 6】従来の外装材取付構造の他の例を示す図である。

【図 7】従来の外装材取付構造の更に他の例を示す図である。

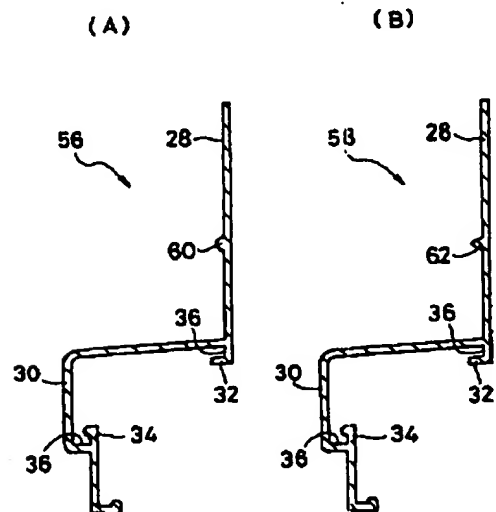
【符号の説明】

- 14 下地
- 16 外装材
- 18 係合凹部
- 26, 56, 58 水切金具
- 28 固定片
- 30 水切片
- 40, 60, 62 位置決片
- 42 固定金具
- 44 固定片
- 46 係合支持片

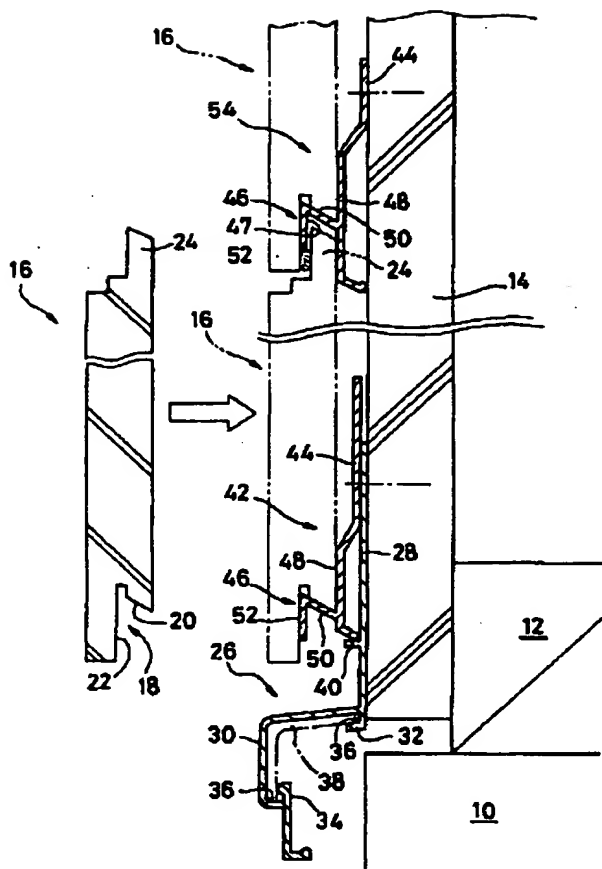
【図 2】



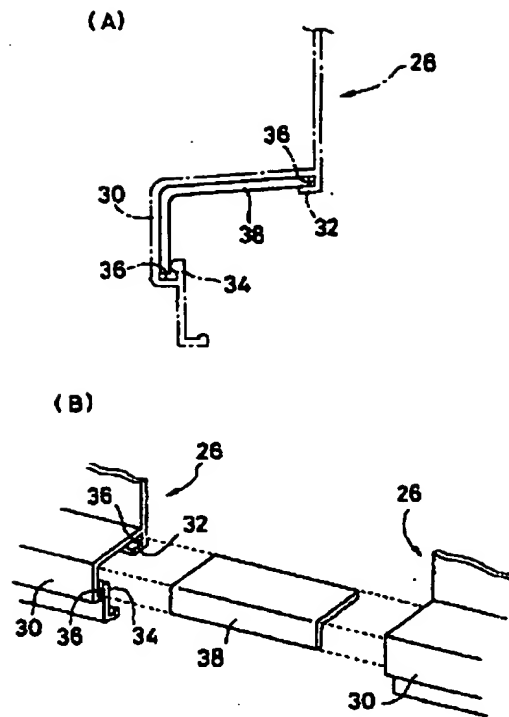
【図 4】



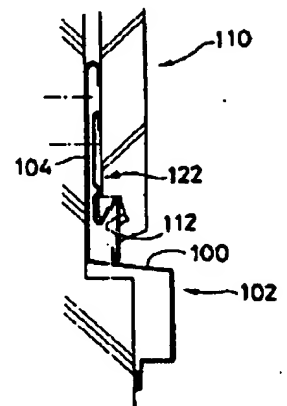
【図 1】



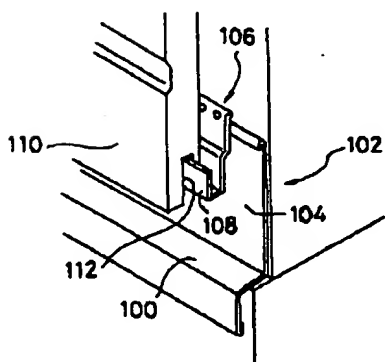
【図 3】



【図 7】



【図 5】



【図 6】

